

(1) 町長の町政運営について

答弁書において「令和4年度施政方針及び第三次総合計画実施計画の中で、私のマニフェストとして示した。」と述べているが、これらはあくまで「方針と計画」であって、所謂公約と言っている「人口減少対策、鳥獣被害防止対策そして教育環境の整備・充実等」についての目的、実施方法、目途、財源はあっても数値目標等を掲げてなく、肝心の事後評価検証可能性に欠けていると言えまいか。つまり、「マニフェスト」とは、個々の政策・施策について事後検証可能な形で策定し、専門知識を持たない一般有権者にも解り易い表現で明文化して提示することでないか。「マニフェストとは」の認識を改めて伺いたい。

(2) 次代を担う人材育成プロジェクトについて

一点目、「学校経営アドバイザー」の必要性について、答弁書では一定の理解はできるが、十分な理解とはなりません。再度伺います。他自治体においても任用事例が多いのか。本町においては「人材育成プロジェクト」に取り組むことを課題として必要としているのか。「指導主事」との棲み分けも分り難い。そもそもを考えると、このプロジェクトの提案者、卓越した校長経験者であると聞き及ぶ教育長本人の役目としてあるのではないかと考える。その方がストレートにビジョンの理解と信頼性が進み、校長が替ってもしっかりと伝えやすいのではと考えるが如何か。

二点目、「地域学校協働活動とコミュニティースクールの関わり」は意義と課題を踏まえた一体的推進が必要との趣旨で理解します。ここでの私の質問は、確認はしていないが、平成29、30年頃にコミュニティースクール取り組み担当を任用している由を訊いた記憶があ

るので、本町での今までの取り組みについて伺ったのである。

三点目、②においては、「次代を担う人材育成プロジェクト」全体への理解は大切だと思うが、「幼小中一貫教育」取り分け「義務教育学校」を本郷地域において開校するとしていることについての理由、課題、目的、意義、時期、などを解り易く説明する必要が急務と考える事からどのように整理し、特に現場である本郷地域住民に対して説明をしていくのか段取りを伺ったのである。再度の答弁を求める。

(3) 公園等の公衆トイレ管理について

一点目、全町的管理状況についての問題、課題認識についての答弁を戴いていません。本
当に、実状把握充分の上で「個別施設計画」に反映されていると解して良いか伺う。

二点目、向羽黒山城跡とりわけ二の丸駐車場前トイレについて、前向きな答弁と受け止めます。そこで強いて伺いますが、検討するだけでなく目途を明示してください。

(4) 旧本郷第一小学校跡地利活用具体化について

一点目、答弁で「基本計画を作成するための予算を計上している」とのことは、令和4年度中にまとめあげると解せるが、実に広い跡地であり「三つの理念」を生かすことを考えると、実施計画は複数年次計画となるのか、目途も合わせて所見を伺う。

二点目、「提案型の業者選定」とは、具体的に解り易い説明を求める。

三点目、住民は実のあるワークショップ開催を期待している。「専門家のアドバイスを参考にしながらワークショップ等」とは、まず具体的に解り易い説明を求める。専門家とは、地域づくりか、都市デザインか、造園か、樹木医か、はたまたワークショップのファシリテーターを指しておるのか分り難い。

四点目、「子どもが自由に遊べる場所」についての進め方は基本的に評価します。素晴ら

しい他事例も参考にしながら、全体構想づくりに向けては十分なワークショップ開催によって町民・地域住民と共に創り上げていかれるよう取り組むべきと思います。所見を伺う。余談になりますが、本町との姉妹都市である檜葉町では、先月、「みんなの交流館 ならは CANvas」が「第 37 回福島県建築文化賞復興賞」を受賞されました。お祝いを申し上げます。この施設を造るにあたって、松本町長は「設計段階から 9 回にわたるワークショップを行い、様々な年齢・立場・視点から語られた想いを取り入れ具現化したことで、みんなに愛され育てられていく施設として整備することができました。世界でたったひとつの手作り施設」と言っています。私は大事な示唆を感じる取れる「在り方」だとして紹介します。

以上

